

any

ars nova yamaguchi

「エニ」

Summer 2022

JUL.-SEP.

120

安吾と中也、 共鳴する二人



特集

特別企画展

「坂口安吾と中原中也
——風と空と」

特集

03 安吾と中也、
共鳴する二人

特別企画展

「坂口安吾と中原中也——風と空と」

08 any 通信

- ◎アーティストボイス 挾間美帆 (作・編曲家・指揮者)
- ◎お先に試写しました 「私だけ聴こえる」(監督:松井 至)
- ◎読書の窓 原田マハ 『美しき愚かものたちのタブロー』
- ◎映画と 『つつんで、ひらいて』劇場用パンフレット
- ◎BOOK MARK まちじゅう図書館・美容院SARA

ピックアップイベント

10 山口情報芸術センター
YCAM 爆音映画祭 2022
映像表現の核心に音で迫る!

Yamaguchi Seasonal
自然や環境の移ろいをうつし込む作品展

中原中也記念館
特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」関連プログラム
公開対談 三瀦末雄 × 坂口綱男
安吾・中也の文学から現代の文化芸術までを語り尽くす!

山口市市民会館
豪華競演 特撰東西落語名人会
上方落語と江戸落語が競演!

ミュージカル「夜の女たち」
占領下を生き抜いた日本人たちの物語

13 イベントレポート
串田和美 独り芝居 野外劇「月夜のファウスト」

14 イベントカレンダー 7~9月
INFORMATION



特集 特別企画展

「坂口安吾と中原中也——風と空と」

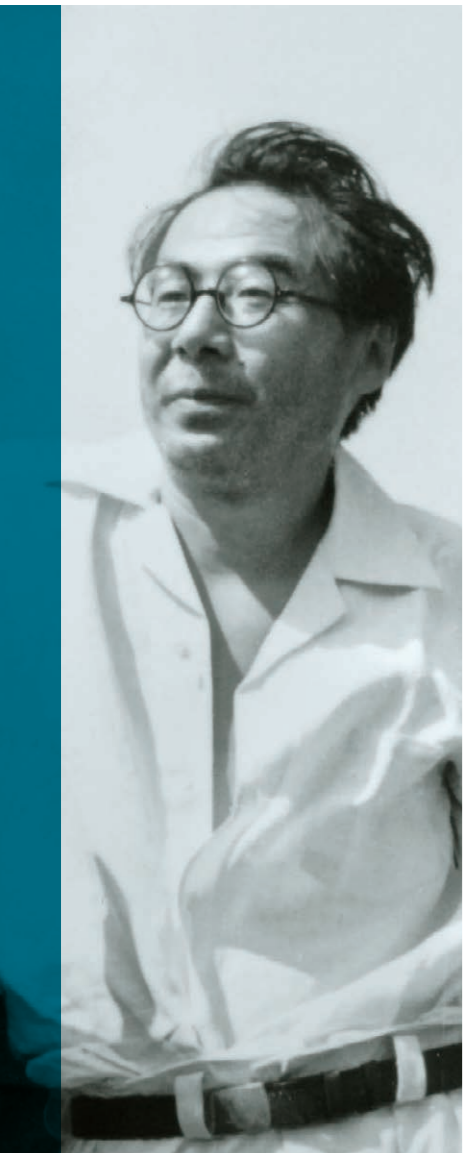
近代日本文学を代表する作家の一人である坂口安吾。詩人・中原中也とは一歳違いの同世代の作家として、中也没後も活躍した。今夏より開催される、中原中也記念館の特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」は、安吾と中也の作品を比較することで浮かび上がる二人の文学者の共鳴に焦点をあてた企画展だ。坂口安吾の文学の道筋をたどり、その魅力を掘り下げていけば、おのずと中也へとつながっていくという。その真相を、企画展を準備する池田さんにお聞きした。

p. 2~4, 6~7 写真提供:新潟市「安吾 風の館」

安吾と
中也、
共鳴する
二人

坂口安吾 SAKAGUCHI ANGO

1906年、新潟市生まれ。作家。本名炳五。東洋大学印度哲学倫理学科卒。大学在学中より、アテネ・フランスでフランス語を学ぶ。昭和6(1931)年、小説「風博士」などにより、文壇の注目を浴びる。戦後は流行作家として活躍し、多彩な作品で知られる。代表作に「日本文化私観」「白痴」「墮落論」「桜の森の満開の下」など。1955年没。



「無頼派」と呼ばれ、 戦後の日本文学界を 駆け抜けた作家、 坂口安吾



安吾と中也がともに携わった雑誌「紀元」創刊号(1933年)

まずは今回の特別企画展でとりあげる、
坂口安吾について教えてください。

坂口安吾は、太宰治や檀一雄らとともに「無頼派」と呼ばれ、近代日本文学を代表する作家の一人として知られています。1906年に生まれ、中也の1歳年上。新潟出身で、お父さんは衆議院議員として活躍した政治家であり、地元の名士でした。13人兄弟の12番目の子どもだったこともあり、ほぼ末っ子のような育てられ方をしたので、長男として期待を背負って生まれてきた中也とは違い、家の期待はそんなになかったようです。

その活動は戦前と戦後で違って、戦前も活動していましたが、大ヒットを飛ばすわけでもなく、知る人ぞ知る作家。性格も無口で、暴れん坊のイメージはありませんでした。けれども戦後「墮落論」と「白痴」を発表してから、一気に有名作家になり、そこから戦前の作品もリバイバル発行されるなど、みんな安吾の作品を読みたがるようになっていきます。おかげで仕事が増えすぎたために、当時医療品として市販されていた覚せい剤(ヒロポン)と睡眠薬(アドルム)を服用しながら昼も夜も仕事をして、入院をすることもありました。その過程で安吾のエピソードによく出てくるような、カレーを100人前注文したり、すぐお世話になった人の家に突然バットをもって殴り込みに行ったり、色んな事件を起こすので、豪快でめちゃくちゃなことをする人というイメージが根付いていきます。

最期は脳卒中で48歳で亡くなるのですが、もともとは、スポーツが得意で、全国中等学校競技会の走り高跳びで優勝するくらいでした。無茶をせず普通に生活をしていれば長生きできたかもしれません。長寿を全うできなかったのは、おそらく戦後の働きすぎが原因ですが、ただ、そうやって働いたおかげで安吾の作品が一気に世に生み出されていきます。安吾の全集では戦前の作品は3巻までにおさまっていますが、戦後の作品は4巻から15巻までなので、そう考えると3分の2はこの働きすぎの時期の8~9年くらいで一気に書かれたことに。ものすごい仕事量です。

2人に影響を与えた フランス文学との出会い、 共通する友人たち

中也と坂口安吾にはどのような共通点がありますか？

安吾は小説家で中也は詩人ですが、人に対し真っすぐに正面から向き合う姿勢や、文学を信じる思いなどで2人は共鳴

していたのだと思います。中也は昭和12年に30歳で亡くなってしまいますので、2人が接していた時期はとても短く、約5年間しかなかった。しかも昭和11年、12年あたりは2人に具体的な関わりはなかったので、正味3年から4年くらいの交友関係だったといえます。

最初の共通点としては、2人ともフランス文学に関心を持ち、ともに、フランス語を学ぶため、東京の語学学校「アテネ・フランセ」に通っていたことが挙げられます。安吾はアテネ・フランセの中で友人関係を広げていき文学の道を深めていきますが、中也は音楽団体スルヤとの交流や同人誌を作るなどして、アテネ・フランセの外にも交流の幅を広げながら作品を発表していきます。20代前半くらいまではお互いに別々の雑誌で活動していて、のちに2人は出会い、交友を深めていきます。また、2人はそれぞれをよく知る共通の友人たちが多くいました。中也と安吾は東京・京橋にある「ウィンゾアー」というバーで出会うのですが、その頃すでに中也は河上徹太郎や大岡昇平、安原喜弘らと友人関係にあり、安吾も別の場で彼らと知り合っていました。そのため、出会ったときにはもうお互いなんとなく名前は知っていたのではないかと思います。書き残されていたわけではないので確証はありませんが、見ず知らずの人間ではなかったはず。もしまったく知らない関係だったとしても、話をしてみたら、「あいつも知っているのか、こいつも知っているのか」となったでしょうし、フランス文学の関係でも話は合ったでしょう。だから、一気に仲



良くなってそこからよく酒場に一緒に繰り出すようになっていきます。

自然に対する見方を作品に どう取り込んでいくのか、 そこに違いがでてきます。

逆に2人の違いから見えてくることはありますか？

小説と詩というところでの大きな違いはありますし、文学的な観点からみたら、「故郷」に対する思いは微妙に違うところがあります。今回の展示ではその違いを、「風」と「空」というテーマでそれぞれ紹介していきます。「風」という観点からみると、安吾が描く風はびゅーびゅー吹く風、強い風、突風が多くて、「桜の森の満開の下」という作品でも、地面に落ちた桜の花びらが突風でふわっと舞うシーンが描かれています。中也の場合は、たとえば「帰郷」という詩では、「これが私の故里(ふるさと)だ／さやかに風も吹いてゐる」といったように、そよそよと吹く風を描いている。個人的な感想ですが、安吾の生まれ故郷である新潟と、中也の生まれ故郷である山口の風土や風景の違いがそこに現れているように思います。日本海からの風が延々と吹き止まない風景が、新潟のひとつの特徴になっている。一方で、山口は盆地ということもあり、突風を感じることもなく、海風がびゅーびゅーと吹くイメージはない。そのあたりが2人が作品を作るうえでの基準になっていて、自然に対する見方を作品にどう取り込んでいくのか、そこに違いが出ています。「空」も同様に、安吾の場合は「蒼空」という言葉を使っていて、宇宙に届かんとするようなものすごい青空を描いたかと思えば、「吹雪物語」では曇った空、いつ雪が降ってもおかしくないような雪国のどんよりとした厚い空が描かれていて、そのくっきりとした空の違いを描く点において、中也の空とは描き方が違っています。その違いが見えるからこそ、それぞれの文学の魅力が際立って見えてきます。



観覧聴み
いた
あなた！
の！

◎住んだ町が人格や文学的指向に与える影響について考えた。(60代女性 企画展I「中也の住んだ町——幼少期」より)
◎期待を超える感動の名演。(60代男性 「狭間美帆 m_unit Jazz Live」より)
◎意識の深層を揺さぶられ、幼い頃眠れない夜に見ていた幻想や空想を思い出しました。(60代男性 「もつれる水瀧」より)
◎制作のコアな内容が聞けて大変良かった。(「Echoes for unknown egos—発見しあう響きたち バックステージツアー」より)

わかる！
キーワード

【アテネ・フランセ】1913年(大正2年)創立の語学学校。東京帝国大学講師で古典ギリシア語・ギリシア文学を教授していたフランス人ジョゼフ・コット(Joseph Cotte)により創設。当初よりフランス語・古典ギリシア語・ラテン語の授業を続け、現在は、英語(アメリカ英語が主体)も開講されている。

風

空

展示では2人の関係性をどのように紹介していくのでしょうか？

そのものずばりを紹介できるような資料はないので、パネルや作品の引用を使って、2人が共鳴し合っていたことを詳しく紹介していきます。「風」や「空」というキーワードをとおして、2人を並べて比較することでみえてくることある、そこを掘り下げていきます。また、たくさんの友人が共通していて、すごく近いところにいたことも分かっていたような展示を考えています。戦後になっても、安吾と小林秀雄や青山二郎など中也につながる人

ちとの交流は続いていき、中也の影はそこにもはっきりとみえます。2人に共通する交友関係を直接的にみせなくても、安吾の文学的な流れをたどれば、中也の活動も自然と浮かび上がってきます。

安吾は中也のことをどんなふう語っていたのでしょうか？

安吾は中也の死後、中也のことをあちこちで書いています。例えばパー・ウィンゾアで初めて会った時、その当時同じ女性が好きだったことが原因で中也から喧嘩をふっかけられるが、あっさり負けを認めてきた話、安吾が街の悪い奴と喧嘩して、殴られ顔が膨れあがっているのを中也にさんざん笑われた話や、中也はコンニャクが嫌いだった話とか、安吾が書く作品のなかに「中原中也」という人物がちょこちょこ出てきます。それはあくまで安吾の作品に出てくるフィクションのなかの中原中也であって、それがそのまま事実とはいえないけれども、安吾が小説に登場させる中原中也はすごくおもしろい人。実際に安吾は中也のことをおもしろいと評価していたからこそ、想い入れ深く、愛情深い視点で、愛すべき人として中也を描いています。ひっくり返せば、安吾にとって中也がどんな人だったのかがおのずとみえてくる。そのことも展示で紹介していきます。

安吾についてはどんな資料が展示されるのでしょうか？

新潟市の「安吾 風の館」からお借りして、安吾の遺品をたくさん展示します。安吾は、とにかく自分が「これが合理的だ」と思ったらそこに突き進むようなタイプの人でした。本人は大まじめに合理主義を貫いているつもりなのですが、はたからみればちょっとずれていて、そこがおもしろいんですね。たとえば計測器がついているけど、何を計測しているかよく分からない野球バットや、競輪のときに使用していた眼鏡型の双眼鏡。眼鏡型なので両手が使えるからいいだろうと思ったのですが、外さなければ近くは見えないので手も動かしにくい。合理的だということだけがひとりあるきして、「本当にそれ便利なの？」とツッコミを入れたくなるものが多い。同じ服を着続けることもそうですが、きっと安吾は人からどう見られるかよりも、自分がどう思うかが大事だったのではないのでしょうか。お借りする遺品のうち数点ほど、安吾の息子さんである綱男さんのコメントを入れてもらいます。実は安吾がとても繊細な人であったことや、さっき挙げたようなちょっと変わった合理主義者であったことなど、安吾との思い出や安吾の人柄がみえてくるエピソードはとてもおもしろく、お借りした遺品をただ展示するだけ

もっと知りたい！ 坂口安吾

坂口安吾の妻・三千代が記した回想記『クラクラ日記』

「墮落論」「白痴」「安吾巷談」などで戦後文壇を華やかに彩り、やがてアドルム中毒のすえ狂気に追いこまれていく、坂口安吾。その孤独の人安吾を捨身で支え、看護し、様々な事件の後始末に奔走した妻の視点から、異能の作家を愛と悲しみをもって描き切った1冊。これを読めば、安吾の素顔が見えてきます。1989年、ちくま文庫刊。



ではなく、安吾にとってどういう意味があったのかも知っていただきたいです。

これから何か新しいことをやっていきたいと思っている若い方々にも来ていただきたい。

関連イベントはどんなものを予定していますか？

企画担当者が展示をガイドするプロムナードトークに加え、YCAMとの連携で行うワイカムシネマでの特集上映もあります。安吾の小説を原作に映画化した作品をいくつか取り上げて上映します。また、目玉としては、ミヅマアートギャラリーの三浦未雄さんと坂口綱男さんの対談を企画しています(本誌p.11参照)。高校受験のときの家庭教師として三浦さんが坂口家に来ていたようで、でも勉強はほと

んど教えてくれなくて、綱男さんのベッドに寝転んで漫画をよく読んでいたとか(笑)。文学の話や中也の詩を教えてくれたのも三浦さんだそうで、おかげで綱男さんの精神形成において三浦さんは大事な方だったようです。三浦さんは若いアーティストを育てていらっしゃる方。対談にはぜひ、安吾や中也に関心がある方だけではなく、美術や芸術に関心があり、これから何か新しいことを目指してやっていきたいと思っている高校生や大学生など若い方々にも来ていただきたいと思っています。お二人のお話はそういう人たちに響いてくるはず。たくさんの方に関連企画をとおして展示に興味をもってもらいたいですし、また坂口安吾・中原中也という2人の作家が同時代を生き、共鳴していたことや、2人の作品の魅力を知るきっかけとして企画展に足を運んでいただけたらと思います。

特別企画展 「坂口安吾と中原中也——風と空と」

2022年7月28日(木)～10月2日(日)
9:00～18:00(入館は17:30まで)
会場：中原中也記念館

[入館料] ()内は20人以上の団体料金
一般 330円(275円) / 大学生 220円(165円)
18歳以下・70歳以上無料



安吾の作品を通じて 中也のことも おのずとみえてくる。

【万年筆】

【腕時計】

【双眼鏡】
(眼鏡型)

【鉛筆削り】

【筆箱】

安吾の遺品を一部ご紹介します。

観覧のみなさん！
ぜひ覗いてください！

- ◎きらびやかで美しく、色々な景色を見せてもらいました。(20代女性 [扶間美帆 m_unit Jazz Live]より)
- ◎心の中身がまるごと出るような気持ち良い作品でした。(40代女性 [もつれる水演]より)
- ◎中也の読んだ本を自分も読んでみたいです。(30代女性 テーマ展示「中也の本棚——日本文学篇」)
- ◎体を使うことの純粋な喜びを感じられました。(30代女性 [ヨルグ・ミュラーによる身体ワークショップ]より)

PRESENT

特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」のパンフレットをプレゼントします。

[申込方法] ご希望の方は、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、7月31日(日)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」パンフレット(3名)

[あて先] 〒753-0075 山口市中国町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.120 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp

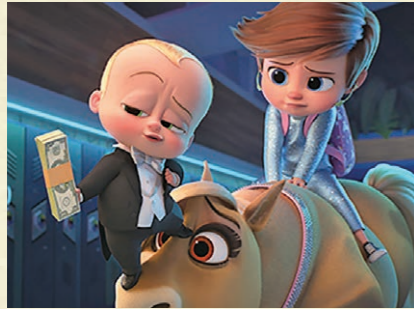
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

any通信

アーティストから聞いたこぼれ話、
映画や本の情報など、
旬のお便りを詰め込んで、
あなたのもとへお届けします。



YCAM夏の風物詩、
今年もやります!



「ボス・ベイビーファミリーミッション」
©2021 DreamWorks Animation LLC. All Rights Reserved.

日が暮れて涼しくなった中央公園で映画を楽しむ夏の恒例イベント「真夏の夜の星空上映会」。心地よい夜風にあたりながら、ピクニック気分映画鑑賞をしませんか?ドキュメンタリーやアニメーション、児童文学の映画化作品など、今年もお子様からお年寄りまで、みんなが楽しめる作品を揃えてお待ちしております。キッチンカーも出店しますよ!

■真夏の夜の星空上映会 2022
2022年8月12日(金)~14日(日)
各日19:30~
会場:中央公園(山口情報芸術センター前)
[上映作品]※いずれも日本語吹替版
8月12日(金)「世界の果ての通学路」
8月13日(土)「ボス・ベイビーファミリー・ミッション」
8月14日(日)「ドクター・ドリトル」
[料金]無料 ※12歳以下は要保護者同伴

たくさんの詩と声を届けた 中也生誕祭

毎年、中也の誕生日の4月29日に行われている「空の下の朗読会」。雨天のため、昨年引き続き、「空の下」ではなく屋内での開催となりましたが、今年も多くの方にご参加いただきました。1部では、参加者が自作の詩や好きな詩を自由に持ち寄り、朗読を披露。2部のコンサートでは、シンガーソングライターの二階堂和美さんの



二階堂和美

のパワフルな歌声とライブパフォーマンスに酔いしれました。続く中原中也賞贈呈式では、授賞者の國松絵梨さんへ温かい拍手が贈られ、たくさんの詩と声にふれる一日となりました。

展示を紹介する 動画サイトを配信中!

動画サイトYouTubeで、中原中也記念館の展示の一部を紹介する動画が公開されているのをご存知ですか?公開中の動画は現在15本。過去の展示会の動画もあるので、見逃した方はもちろん、中原中也記念館にまだ行ったことがないという方も、動画を見れば、いますぐ記念館に行ってみたくなること間違いなし!

▼詳しくはこちらをご覧ください。

<https://chuyakan.jp/>



©TEMJIN / RITORNELLO FILMS

お先に
試写し
ました

「私だけ聴こえる」

(2022年/日本/76分/カラー/字幕上映)
[監督]松井至

今年3月に発表された第94回アカデミー賞で最優秀作品賞に選ばれたのは、「コーダあいのうた」でした。コーダ(CODA:Children Of Deaf Adults)とは耳の聴こえない親から生まれた、耳の聴こえる子どもたちのことです。今回ご紹介する「私だけ聴こえる」は、アメリカでコーダの子どもたちを3年間取材したドキュメンタリーです。家では手話で、外では口話で話し、学校に行けば「障がい者の子」扱い、ろうからは「耳が聞こえるから」と距離を置かれる彼らの居場所探しを追います。以前、補聴器をつけたお客様に映画鑑賞後「聴覚に障がいがある引きこもりがちな人も、字幕上映があると出かけるきっかけにな

る」と声をかけていただきました。音のある世界、ない世界、様々な境界線が存在していますが、孤独を感じる瞬間はみんなにあります。映画は、異なった国や環境に存在する孤独や希望を分かち合う時間をくれます。そしてそれは、境界線を気にすることのない明るい未来へつながると、私は信じています。

前原美織(YCAMシネマスタッフ)

2022年7月23日(土)~8月7日(日)

※上映開始時間等はお問い合わせください。

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[料金]一般 1,300円

any会員・25歳以下・特別割引 800円

【あらすじ】耳の聴こえない両親から生まれた耳の聴こえる子どもたち「コーダ(CODA:Children Of Deaf Adults)」にスポットを当てたドキュメンタリー。15歳という多感な時期にいるコーダたちの3年間を追い、音のない世界と聞こえる世界のあいだで、揺らぎながらも自らを語り、成長していく子どもたちの姿を描く。監督は「社会の周縁に生きる人々の知られざる物語」をテーマに映像作品を制作してきた松井至。

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

挟間美帆 (作・編曲家・指揮者)

ニューヨークを拠点に世界的活躍を続けるジャズ作曲家の挟間美帆さん。彼女がプロデュースする13人編成のジャズ室内楽団「m_unit」が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による半年間の延期を経て、今年3月について山口市民会館で開催。待っていたお客様からは「とても素晴らしい演奏だった」と喜ばれました。初めて訪れた山口の地、どんな風を楽しまれたのでしょうか。

次はゆっくり過ごしてみたいと感じた 印象深い街

山口市には今までご縁がなく、そんな場所で私達はコンサートなんてできるのだろうか、空港から演奏会場までのバスの中で、私は期待より不安がクレッシェンドしてゆくのを感じていました。でも、山口市民会館のみなさんが総出でお出迎えしてくださり、そんな不安は「良い演奏をしたい!」という気合いに変変わり。お客様に直接お会いできなかったのは残念でしたが、「感激で涙を流していた人もいた」と終演後に伺い、この機会に演奏できて良かったと心から思っています。終演後、少しでも良いから山

口を体験したい!とバンドメンバーが必死にリサーチ。湯田温泉の足湯へかけ込みました。足湯につかりながらの仲間達との乾杯は、その日の疲れもすべて喜びに昇華した瞬間でした。そして再リサーチ(13人もバンドメンバーがいると、必ず一人はリサーチ達人がいるものです)の結果、山口名物に舌鼓を打つこともできました。車えびに一同大感激!翌朝にはすぐ発たなければならなかったのですが、次はゆっくり過ごしてみたいと感じた、印象深い街となりました。



photo:Agnete Schlichtkrull

挟間美帆 HAZAMA Miho

国立音楽大学およびマンハッタン音楽院卒業。2012年、ジャズ作曲家としてメジャーデビュー。14年、出光音楽賞受賞。20年に、アルバム「ダンサー・イン・ノー・ホエア」が米グラミー賞ノミネート、19年からデンマークラジオビッグバンド(DRBB)首席指揮者、20年にはオランダのメトロポール・オーケストラ常任客演指揮者に就任。21年、DRBBとのアルバム「イマジナリー・ヴィジョンズ」をリリース。

の読窓書

『美しき 愚かものたちの タブロー』

原田マハ 著

2019年/文藝春秋



国立西洋美術館設立の要因となった「松方コレクション」。西洋の優れた美術を日本に紹介しようと実業家松方幸次郎が収集した1万点以上といわれる美術品は、しかし全てを日本に持ち帰ることができたわけではありませんでした。この本では絵画収集に情熱を傾けた松方、彼の美術アドバイザーとなった田代、第2次世界大戦中フランスに残された松方コレクションを人知れず守り抜いた日置、戦後フランスに接収されたコレクションの返還に尽力した吉田首相など、松方悲願の美術館建設に関わった人々の物語が臨場感たっぷり描かれています。「ほんものの絵をみたことがない日本の若者たちのために、ほんものの絵が見られる美術館を創る。それがわしの夢なんだ」(松方の言葉)。先人たちの情熱に胸が熱くなります。

鈴木初子(山口市立中央図書館 職員)

BOOK MARK



まちじゅう図書館 美容院「SARA」

みなさんは、図書館の本が実は山口市内のあちこちの場所で読めることをご存知でしたか?気軽に読書に親しめるように、「まちじゅう図書館」としてまちなかの人が集まる場所に「サテライトライブラリー」を設置したカフェや美容院に図書館でセレクトした本をデリバリー。本は2カ月に一度入れ替えて旬なものを選書しています。現在は市内15カ所に設置。なかでも美容院のSARAさんは、まちじゅう図書館をスタートした初期から協力いただいている店舗の一つ。9月には市立中央図書館でヘアカットやアレンジに関するワークショップも予定しています。美容への意識も変わり、また図書館へ来る楽しみにもなる!?今後の情報を要チェック!!

読み聴観 びんいた ユなた!

- ◎挟間さんの音楽、そして演奏者の若々しく洗練されたサウンドに引き込まれました。(50代女性 「挟間美帆 m_unit Jazz Live」より)
- ◎雑談がゆるやかに進むかと思ううちに、どんだんストーリーに引き込まれていく感じがおもしろかった。(50代女性 「月夜のファウスト」より)
- ◎ワークショップを通じて気持ちがひとつになったり、人の温かさ、人とながる楽しさを感じました。(40代女性 「ヨルグ・ミュラーによる身体ワークショップ」より)
- ◎広島に行って中原が目にした所に行きたいと思った。(10代女性 企画展I「中也の住んだ町——幼少期」より)

読み聴観 びんいた ユなた!

- ◎布一枚がこんなに魅力的になること、ヨルグさんの繊細な動きに見入ってしまいました。(50代女性 「もつれる水滴」より)
- ◎選曲が最高でした。(30代男性 「挟間美帆 m_unit Jazz Live」より)
- ◎中也自身に会えたような気持ちになれる展示で感動しました。(60代女性 テーマ展示「中也の本棚——日本文学」より)
- ◎作品に関して説明的な部分が多くなく、観客の都合で解釈させてもらえる余白が残されていた。(女性 「月夜のファウスト」より)

山口情報芸術センター (YCAM)

https://www.ycam.jp/

YCAM爆音映画祭2022

2022年8月26日(金)～28日(日)

会場:スタジオA

映像表現の核心に音で迫る!

映画評論家の樋口泰人が国内外で開催している上映イベント「爆音映画祭」。ライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて映画を鑑賞するもので、YCAMでは「YCAM爆音映画祭」と銘打ち、2013年以来毎年開催してきました。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大にとまひ、1日のみの開催となりましたが、今年はリベンジの気持ちをもって臨みます! 国内でも最高レベルの音響環境と言われるスタジオAを会場に、天井や座席の下にいたるまで数十台の特設スピーカーを配置。精密に調



「アメリカン・ユートピア」
©2020 PM AU FILM, LLC AND RIVER ROAD ENTERTAINMENT, LLC ALL RIGHTS RESER

整された唯一無二の“爆音”があなたを包み込みます。昨年上映できなかった作品も含めて、今年も多彩なラインナップにご期待ください。

わたしはココに注目する!

今年は、昨年一番人気が高かったにもかかわらず、爆音での上映がかなわなかった「アメリカン・ユートピア」が復活! あわせて、8月26日(金)のオープニング&トークイベントに、「アメリカン・ユートピア」の字幕監修をされたブロードキャスター、ラジオDJ、音楽評論家のピーター・バラカンさんをゲストに迎えます!!

チケット情報 7月2日(土)～

料金 全席指定 前売 1回券 一般 1,300円 any会員・特別割引・25歳以下 1,100円
3回券 一般 3,600円 any会員・特別割引・25歳以下 3,000円

※上映開始時間やプログラム等詳細はお問い合わせください。 ※any会員割引はご本人のみ。

mini PICK UP!

Audio Base Camp#1

2022年9月2日(金)～4日(日)

会場:山口情報芸術センター
スタジオA



会場となるスタジオA

国内でも最高レベルの音響環境と言われるYCAMのスタジオAで、レコードやCDなどの録音物を聴取するイベントを開催します。ライブ・コンサート用の大規模かつ高品質なスピーカーを用いて、フィールドレコーディングや実験音楽などのテーマに沿って選定された楽曲を再生。一般的な聴取環境では捉えづらい楽曲における繊細な構造や、音楽家が考える音の核心にじっくりと迫っていきます。

[チケット情報] 7月2日(土)～

[料金] 全席自由

前売(1回券) 一般 1,300円 ほか

※割引料金、DJプログラムチケット、フリーパス券等、詳しくはwebサイト等をご覧ください。

mini PICK UP!

YCAMオープンラボ2022

2022年9月23日(金・祝)

会場:山口情報芸術センター
ホワイエ

※開催時間等の詳細はお問合せください。



2019年の開催の様子 photo:谷康弘

今日におけるアートや研究開発、公共文化施設のあり方を捉え直すシンポジウム形式のイベント「YCAMオープンラボ」。2017年から毎年開催しており、コロナ禍でのオンライン開催を経て3年ぶりに会場をYCAMに戻して開催します。23年にYCAMが20周年を迎えるにあたり、「公共文化施設の社会的意義について」というトークテーマのもと、様々な分野で創造性と公共性について考察してきたゲストを招き、トークやディスカッションを行います。

[参加費] 無料(要申込)

Yamaguchi Seasonal

2022年9月17日(土)～12月25日(日)

会場:山口駅前サテライトA(「water state1」)、常栄寺雪舟庭(「Forest Symphony」)

※展示公開時間は作品や時期により異なります。詳しくはお問い合わせください。

自然や環境の移ろいを うつつ込む作品展

一昨年と昨年に「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として再展示されたアート作品が、今年もYCAMの外に飛び出して公開されます。展示作品はいずれも、坂本龍一と高谷史郎とYCAMとが共同で、2013年に制作したインスタレーション作品で、自然と人間社会の境界で長い時間をかけて発展してきた「庭」という文化の形式に、多くのインスピレーションを受けています。水滴と波紋、樹々の生命活動の痕跡がもたらす揺らぎ、それらを包み込むサウンドなど、不定形で、刻々と変化する作品たち。会場は山口駅近くにオープンするYCAMの分館に当たるサテライトA、そして雪舟庭で知られる常栄寺。秋から冬にかけ、移り変わる景観



「Forest Symphony」 photo:山中慎太郎(Qsyum!)

とともに、作品を鑑賞することで、大きな時間の流れをより深く感じていただけることでしょう。

わたしはココに注目する!

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックを受け、私たちは持続可能な環境をどう目指していくべきなのか突きつけられています。この作品を観ていま何を感じるのか。2013年に制作された当初のテーマとして坂本龍一さんが掲げられた(アート)「環境」(ライフ)を見つめ直す機会となればと思います。

料金 ■ 無料(「Forest Symphony」の鑑賞には常栄寺拝観料が必要となります。)

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

中原中也記念館

https://www.chuyakan.jp/

特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」関連プログラム

公開対談 三浦末雄×坂口綱男

2022年8月6日(土) 18:00～

会場:山口市菜香亭



三浦末雄
photo:野口博



坂口綱男

安吾・中也の文学から 現代の文化芸術までを語り尽くす!

特別企画展の関連企画として、ミヅマアートギャラリー・エグゼクティブディレクターの三浦末雄と、坂口安吾の長男で、写真家の坂口綱男による公開対談を行います。三浦は1980年代からギャラリー活動を開始し、東京のミヅマアートギャラリーを基点に、多くの若手作家を育成、発掘、紹介し続けてきた第一人者です。一方、坂口綱男は安吾の子息として、安吾の文学顕彰に携わってこられ、現在は新潟市の「安吾風の館」の館長として活躍されています。

坂口安吾と中原中也の話から、2人の関係とエピソード、さらには現代日本の文化芸術についてなど、どんな話が飛び出すでしょうか。安吾と中也に関心のある方はもちろん、アート全般に興味のある方にもおすすめの対談です。

わたしはココに注目する!

実は綱男氏の中学校時代の家庭教師が三浦氏で、綱男氏は三浦氏から中也の詩を教えてもらったとのこと。また、三浦家には安吾が訪ねてきたことがあったそうです。安吾と中也にご縁のあるお二人による師弟対談。お楽しみに。

料金 ■ 無料(定員50名・要申込)

検定 中也



中也2歳、謙助と

Q 中原中也の父・謙助は医者で、中也が幼い頃は軍医として各地を転任して回りました。謙助は若い頃、陸軍軍医学校に通っていたのですが、そのときある人物が校長を務めていました。その人物は文学者として有名で、短歌や小説を創作していたこともある謙助は、非常に尊敬していたといえます。さて、その人物とは一体誰でしょうか?

- 1 斎藤茂吉
- 2 森鷗外
- 3 石川啄木

答えは14ページ

中也の味わう

蛙声

天は地を蓋ひ、
そして、地には偶々池がある。
その池で今夜一と夜さ蛙は鳴く……
あれは、何を鳴いているのであろう?

その声は、空より来り、
空へと去るのであろう?
天は地を蓋ひ、
そして蛙声は水面に走る。

よし此の地方が湿潤に過ぎるとしても、
疲れたる我等が心のためには、
柱は猶、余りに乾いたものと感はれ、
頭は重く、肩は凝るのだ。
さて、それなのに夜が来れば蛙は鳴き、
その声は水面に走って暗雲に迫る。

【解説コメント】



屋外展示の様子

中原中也記念館の前庭で中也の詩を紹介する「屋外展示」。今年度のテーマは「天気(詩)」です。10月まで展示中の3篇のうち、ここでは「蛙声」を紹介します。「蛙声」は雑誌「四季昭和」12年7月号に発表された中也晩年の作品で、のちに詩集『在りし日の歌』に収録されました。「暗雲」は「地を蓋う(天)」と呼応し詩に閉塞感をもたらすとともに、湿潤な「此の地方」を象徴しています。乾きを癒せず体の不調を訴える詩人をよそ、蛙の声は、それ自身が意志を持っているかのよう「暗雲」に迫ります。「天」と「空」を書き分けたり、地方に「く」と振り仮名がふられていたり、読めば読むほどいろいろ考えさせられる味わい深い作品です。

観覧 の ビ ュー の ！

- ◎地方の同人誌も読んでたのはおもしろい。オタクなんだなあと感じて親近感。(20代女性 テーマ展示「中也の本棚——日本文学篇」より)
- ◎すべてを理解できたわけではないが、表現のおもしろさと難しさを感じた。(50代男性 「もつれる水滴」より)
- ◎今回の展示を通して山口といった土地にも幾らか興味を湧いた。こういった出会いも来館の醍醐味だと思う。(10代女性 企画展II「雑誌「詩園」——中也・山頭火と山口の文学青年たち」より)

mini PICK UP!

第11回
アロハ・カーニバル2022
2022年9月4日(日) 14:00開演
会場:山口市民会館 大ホール



2021年開催の様子
今年で11回目を迎え、山口で行われる9月の恒例イベントとなった「アロハ・カーニバル」。県内外からフラダンス愛好者が一堂に集まり、それぞれが日頃の練習の成果を披露します。その姿を前に、毎年多くのお客様が会場に集まり、盛り上がりを見せます。指の動きひとつひとつに意味を込めて、神様・自然への感謝の気持ちと祈りを表すフラダンスは穏やかで、とっても神秘的。当日はハワイアンフードやグッズを販売予定。観て・食べて、ハワイ気分を楽しもう!

[チケット情報] 発売中
[料金] 全席自由 一律 500円

先行チケット
発売情報
9月10日
早チケ
発売!

松元ヒロ
ソロライブ2022
2022年11月3日(木・祝)
13:30開演
会場:山口市民会館 小ホール



photo: 橋本二
政治や社会問題に鋭く切り込むネタが持ち味の芸人・松元ヒロ。かつては社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー」のメンバーとして数々のテレビ番組にも出演していましたが、独立し、ソロになってからは舞台を主戦場として精力的に活動を行っています。そのスタイルから「テレビで会えない芸人」と呼ばれ、舞台裏に密着したドキュメンタリー映画が公開されるなどますます注目を集める中、今年も山口公演が決定。痛烈な風刺の中にも温かみのある笑いが会場を沸かせます!

[チケット情報] 9月10日(土)~
[料金] 全席指定
前売 一般 3,200円
any会員 2,700円

PICK UP EVENT! SUMMER 2022
ピックアップイベント

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

豪華競演 特撰東西落語名人会

2022年9月23日(金・祝) 14:00開演(13:00開場)
会場:大ホール

上方落語と江戸落語が競演!

みなさんお待ちかね、今年も市民会館の落語会が開催決定。昨年に引き続き桂文珍と、市民会館には初登場となる桂米團治と柳家三三の3人を迎えます。落語好きな方はもちろん、生で落語を聞いてみたいけれど寄席はちょっとハードルが高くて...という方も、この機会に気軽に足をお運びください。夏の終わりに軽快な噺のリズムに身をゆだねて、暑さでお疲れ気味の心と体をリフレッシュしちゃいましょう!



桂文珍 桂米團治 柳家三三

わたしはココに注目する!
タレントや司会者としても活躍する桂文珍さん。クラシック音楽に造詣の深い桂米團治さん。人間国宝・故柳家小三治の愛弟子・柳家三三さん。個性派の3人からはどんな噺が飛び出すのか?!

チケット情報 | any会員先行 7月3日(日)~ / 一般発売 7月10日(日)~
料金 | 全席指定 前売 一般 4,300円 any会員 3,900円

ミュージカル「夜の女たち」

2022年10月6日(木) 18:00開演(17:00開場)
会場:大ホール

占領下を生き抜いた
日本人たちの物語

戦後間もない大阪釜ヶ崎。価値観のすべてがひっくり返り、何が間違いで何が正しいのかが見失われた時代。戦争で夫や家族を奪われ、生活苦から夜の闇に落ちていった女たちはそれでも必死に生きようとす。劇作家・演出家・俳優の長塚圭史が、溝口健二監督の映画「夜の女たち」を舞台化。映画の脚本を元に上演台本と作詞を手掛け、初のミュージカルに挑みます。「闇の女」へと落ちていく主人公・房子を江口のりこ、妹・夏子を前田敦子、義妹・久美子を伊原六花が熱演。女たちを取り巻く人々を北村有起哉、大東駿介、前田旺志郎らが演じます。いま一度、近代を見つめなおし、混沌とした時代を生き抜こうとする人間の生き様を通じて、その生命力を描く、注目の意欲作です。



上段左より:江口のりこ、伊原六花(photo:御座岡宏士)、前田敦子
下段左より:大東駿介(photo:福澤朝博)、前田旺志郎、北村有起哉(photo:TADAYUKI MINAMOTO)

長塚圭史さんからのメッセージ

photo: 細野晋司
今、また再び世界は戦時下におかれました。壊れゆく街をまざまざと目にするたびに、人間の恐ろしさを痛感します。未だにやめられずにいるのです。忘れてはいけない、知らなくてはならないという思いで立ち上げるこの作品が、なぜ今我々はこちらにこうであるのかという近代を冷静に見つめる一助となると同時に、どんな悲惨の中でも生きていく人間のポジティブな底力を感じていただけたらと思います。

チケット情報 | any会員先行 7月30日(土)~ / 一般発売 8月6日(土)~
料金 | 全席指定 前売 一般 6,500円 any会員 6,000円 25歳以下 3,500円

[上演台本・演出] 長塚圭史
[出演] 江口のりこ、前田敦子、伊原六花、大東駿介、前田旺志郎、北村有起哉 ほか

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

イベントレポート

串田和美 独り芝居 野外劇
「月夜のファウスト」

2022年5月20日 16:00開場 / 18:15開演
会場:クリエイティブ・スペース赤れんが 外庭

5月20日、今日は待ちに待った俳優・演出家の串田和美さんによる独り芝居「月夜のファウスト」の上演の日です。九州から始まり、北は北海道までの全国各地を上演する旅に出られている串田さんご一行。ほかの開催地では劇場での上演が多いなか、ここ山口では、クリエイティブ・スペース赤れんがの外庭に仮設ステージを組んで野外劇として上演することに。今日はあいにくのどんより雲。雨が降らないかひやひや。

お昼過ぎ、仮設ステージが生まれ、音響・照明の準備が整い、いよいよ!と気持ちが高鳴ります。15時過ぎにはキッチンカーが2台やってきて、おいしい珈琲やジェラート、ペーグルサンドが並びます。16時に開場し、徐々にお客様も集まりにぎわいを見せ始めた頃、今回のスペシャルゲストとしてお呼びした、歌手・アコーディオン奏者である上田剛志さんの歌と演奏のミニライブも始まり、早く集まったお客様もお芝居が始まるまでの時間を、思い思いに楽しんでいます。

開演時間の18時15分。山口の歴史と伝統がにじみ出る趣あるれんが造りの壁をバックに組んだステージに串田和美さんが登場。大きな拍手で迎えられます。冒頭、串田さんの自身の戦後幼少期の思い出話とも空想話ともとれるお話に耳を傾けているうちに、気づけば中世を舞台にしたファウストの物語の世界に。赤れんがの外壁に長く伸びる影は、まるで忍び寄る悪魔メフィストが錬金術師ファウスト博士を夜の闇に追い詰めるかのよう。ファウスト博士の時代に移ったかと思えば、串田さんの思い出話に戻ったり、時代や空間を行ったり来たり。様々な役を独りで演じるその様は、串田さんしかないはずの舞台に、登場人物らを生き生きとよみがえらせます。観客のみなさんも想像力を働かせながら舞台は進んでいき、気がつけば時計の針は20時に。1時間45分の上演時間はあっという間で、明るい時間に始まってみえていた景色もすっかり夜の闇に溶け込んでいます。最後までお芝居を見守っていた約180名のお客様からは惜しみない盛大な拍手が串田さんへ贈られ、山口での「月夜のファウスト」の幕は閉じていきました。



Moonlight Faust

串田和美さんからのコメント

クリエイティブ・スペース赤れんがの前、芝生に座ったお客様の前での独り芝居『月夜のファウスト』はとても楽しかったですね。これこそお客様たちと一緒に芝の上にいる「芝居」の醍醐味を皆さんと一緒に味わうことができて幸せでした。今度はどんなお芝居を持ってあそこに行こうかな?ともう勝手に夢を膨らませています。是非また呼んでくださいな。

日没から夕闇へ移ろう時間も取り込んだ野外劇

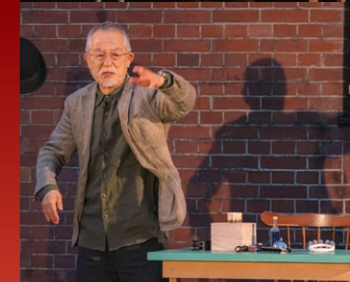


photo: 谷 康弘

7 July

8 August

9 September

※掲載内容は2022年6月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| <p>山口情報芸術センター (YCAM) https://www.ycam.jp/</p> | | <p>30 わたしもアートがわからない vol.2</p> <p>6 7 鑑賞ナビゲーターキャンプ2022</p> | <p>12 14 真夏の夜の星上映会2022 (本誌p.8参照)</p> | <p>26 28 YCAM爆音映画祭2022 (本誌p.10参照)</p> <p>2 4 Audio Base Camp #1 (本誌p.10参照)</p> | <p>17 Yamaguchi Seasonal 「water state1」 (本誌p.10参照) 会場: 山口駅前サテライトA</p> <p>17 Yamaguchi Seasonal 「Forest Symphony」 (本誌p.10参照) 会場: 常栄寺雪舟庭</p> <p>23 YCAMオープンラボ2022 (本誌p.10参照)</p> |
| <p>山口市市民会館 http://www.yamaguchi-civichall.com/</p> | | | | <p>4 第11回アロハカーニバル2022 (本誌p.12参照)</p> | <p>23 豪華競演 特撰東西落語名人会 (本誌p.12参照)</p> |
| <p>中原中也記念館 https://www.chuyakan.jp/</p> | <p>開催中 第19回テーマ展示 中也の本棚——日本文学篇</p> <p>開催中 企画展I 中也の住んだ町——幼少期</p> | <p>27</p> <p>24 企画展II 中也の住んだ町——幼少期</p> <p>28 特別企画展 坂口安吾と中原中也——風と空と (本誌p.3~7参照)</p> <p>22 中原中也を読む会</p> | <p>26 中原中也を読む会</p> | <p>26 中原中也を読む会</p> | <p>23 中原中也を読む会 会場: 吉敷地域交流センター</p> |

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (24時間受付)

<https://www.ycfcp.or.jp/>

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネットでチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6カ月)以上

[料金] 1人につき700円、
2人目以降は1人につき500円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分200円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで
(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人

山口市文化振興財団

Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
https://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

【新型コロナウイルス感染症対策について】

発熱など風邪の症状のあるお客様は、ご入場をご遠慮ください。ご鑑賞前に消毒液のご利用やこまめな手洗いをお願いします。ご来場の際はマスクの着用をお願いします。場内は可能な限り換気を行います。万が一感染者が発生した場合は、お客様の個人情報を公的機関に提供する場合がございます。あらかじめご了承ください。今後の情勢により、公演の開催が変更または中止になる場合がございます。

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
https://www.chuyakan.jp/

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中央2-5-1
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日
https://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/



A. 森鷗外

(讃助が広島病院に勤務していたとき、広島にやってきた鷗外を駅まで迎えに行ったこともあるそうです。)

編集後記

表紙デザインが本号を機にリニューアル! イラストのタッチが変わったかと思いますが、いかがでしょうか? またany通信ページも新コーナーが登場! [M.D] 久しぶりに福岡まで足を延ばして観劇体験。役者と観客ともに作り上げていくあの空気感。やはり生の舞台のライブ感はクセになりますね! [K.A] 文学に映画に舞台作品と盛りだくさんの今号は編集していてもなんだかワクワク。気づけば今日も外は30度超え。暑〜い山口の夏がやってくる! [Y.I]



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion